

1 都心まちづくり戦略とは

1-1 都心まちづくり戦略の必要性と位置づけ

成熟社会を迎えた 札幌の まちづくり

- 成熟社会にふさわしい、「持続可能なコンパクト・シティ¹への再構築」を目指し、都市づくりの基本方向を転換することが重要となります。
- 札幌都心は、多くの人々が集い、活動する場であるため、高次元な都市機能の集積を図り、世界都市の顔として国内外に札幌の魅力をたゆまず発信し続けることが求められます。

新たな市政 に対応した まちづくり

- 「市民自治の推進」、「創造都市さっぽろ」、「環境首都・札幌」など、新たな市政の方向性に対応したまちづくりが求められています。

都心まちづくり戦略（以下本計画）は、**都心の目指すべき将来像と、それを実現するための基本的な方針、重点的に展開すべき取組**を明示することで、**多様な関係主体が協働して一体的にまちづくりを行っていくための指針**となる、10年間程度の計画です。

第4次札幌市長期総合計画（H12～H32）

都心まちづくり計画（H14～）

都心まちづくりの長期的、総合的計画
（計画期間：20年程度）

都心まちづくり前期10年の取組

- 「4軸3交流拠点の骨格構造の実現」
- ・駅前通（地下歩行空間の整備）
- ・創成川通（連続アンダーパス化、親水緑地空間整備）

都心まちづくり戦略（H23～）

- 社会情勢の変化、新たなまちづくりの方向性に対応した、**10年間程度の戦略的な計画**

■新たなまちづくりの必要性～『市民自治の推進』『創造都市さっぽろ』『環境首都・札幌』

■社会情勢の変化～少子化・高齢化、市民ニーズの多様化、コンパクト・シティ

¹コンパクト・シティ：居住機能を中心に、さまざまな機能がまとまりをもって構成される、効率的で持続可能な都市構造。札幌市では、「都市計画マスタープラン」において、「持続可能なコンパクトシティへの再構築を進める」としている。

1-2 都心まちづくり戦略の対象区域

駅前通地区

- 札幌の玄関口であるJR札幌駅、メインストリートである札幌駅前通を中心とした地区である。
- 現在は、道庁や市役所などの官公庁や、銀行や商社などの事業所、地下街商店街、ホテルなどが建ち並び、都市機能の中核的役割を担う。

大通地区

- 開拓使によって札幌本府としてのまちづくりが始められた、市内でも早くから開けた地区である。
- 商業地区として発展し、多くの百貨店やファッションビルが建ち並びなど、市内有数の商業ゾーンを形成する。

すすきの地区

- 開拓使が今の南四・五条、西三・四丁目の二町四方を「薄野遊郭」と命名し、飲食店、旅人宿、貸座敷を集めたことが歓楽街のはじまりとなる。
- 今日では飲食店、風俗店、ホテル、娯楽施設などが集まる、東京以北最大の歓楽街である。

創成川以東地区

- ものづくりの場として古くから札幌の発展を支えてきた地区である。
- 都心にありながら開発余地が今日まで多く残され、近年は人口の大幅な増加など、まちづくりの促進が期待される。

